わが国の生物医学分野における 相互貸借ネットワークの現状

Some Current Problems on Interlibrary Loan Services in the Japanese Biomedical Library Network: A Report Based on a Survey to the Member Libraries of the Japan Medical Library Association

山田 さゆり* 山崎 茂明 裏田 和夫

東京慈恵会医科大学医学情報センター図書館

Yamada, S., Yamazaki, S., Urata, K.: Some Current Problems on Interlibrary Loan Services in the Japanese Biomedical Library Network: A Report Based on a Survey to the Member Libraries of the Japan Medical Library Association. *Igaku Toshokan* 31(4): 391-399, 1984.

The survey was conducted to find a current situation of interlibrary loan services in the member libraries of the Japan Medical Library Association (JMLA). The eighty-seven member libraries were sent the questionnaire concerning their amount of services and daily operations in 1982, and the returned answers were filled 100 percent. JMLA which was started in 1927, made a considerable contribution to supply literatures or their photocopies among the libraries including libraries outside JMLA.

Several results were summarized as follows; (1) JMLA member libraries processed about 433,000 interlibrary loan requests, of which the lending requests were about 275,000 and the borrowing requests were about 158,000 in the total JMLA network, (2) 93 percent of the total interlibrary loan requests processed by the medical libraries and only 7 percent by the dental libraries, (3) some 936,000 requests in total were processed by Japanese university libraries, and about a half the number of the requests were supplied by JMLA member libraries, (4) lists ranked by the numbers of lending and borrowing requests processed by the member libraries were prepared, and there were found the five libraries ranked high in lending service which were supplied 22 percent of the total JMLA lending requests.

And, actual matters of interlibrary loan procedures were reviewed, as to problems on payments on photocopy service charges, on difficulties of speedy services because of separate controls of literatures in various department of many national schools, on verification efforts of bibliographic citations in requests, on clean photo-enlargements of micro-materials of periodicals back issues, on services for pharmaceutical companies and those copyright restrictions, and on large work loads for bookkeepings of the services.

I. はじめに

日本医学図書館協会(以下 JMLA)は昭和2年(1927年)医科大学図書館間の相互協力活動を目的として発足したことは周知のことである。相互協力のさきがけとしてのこのネットワークシステムは常に活発な活動

を行ってきた。

近年の情報機器の発達はめざましく、複写機・テレックスの普及は図書館相互における文献の貸借を、現物の郵送から文献コピーの郵送へ、またテレックスによる文献複写依頼へと発展させてきた。これに加えファクシミリの登場は新たな方向へ変えようとしている。さらに文献検索はオン・ラインの端末機により即時性が得られ、利用者は短時間で求める文献情報を得ることが可能となった。また、文献要求は従来の加盟館内

* Sayuri YAMADA, Shigeaki YAMAZAKI, Kazuo URATA :
Jikei University School of Medicine Library, Nishi-Shinbashi,
Minato-ku, Tokyo 105, Japan.
(昭和59年11月9日 受理)

のほか、一般病院、個人病院、医学分野以外の他大学および研究機関よりと需要の幅を拡げてきている。

このような状況の中で昭和52年及び53年にJMLA加盟館である大阪大学附属図書館中之島分館(以下阪大)・九州大学附属図書館医学部分館(以下九大)・東北大学医学図書館(以下東北)が生物医学系外国雑誌センター館に指定され、国内所蔵資料の拡充が図られることになった。以上のような相互貸借活動を取りまく環境の変化に伴いJMLA内における文献流通量とその構造にも変動が生じていると考えられる。そこで、今後の相互貸借業務の体制、またその対応をどのように確立していくべきかを検討するために、当館は昭和58年12月「相互貸借業務」に関するアンケート調査を行った。その調査結果をもとにJMLAの相互貸借サービスの現状と問題点について検討した。

なお、JMLA相互貸借業務実態調査の報告が角田¹⁾により、またJMLA加盟館統計に基づいた分析が奈良岡²⁾により提出されている。

II. 対象と方法

JMLA加盟館のうち大学図書館を中心とした87館を対象として、昭和58年12月16日に郵送により相互貸借業務に関するアンケート調査を行った。調査データは昭和57年度の実績に基づくものとし、昭和59年1月末をもって締切った。調査対象87館より回答を得、回収率100%であった。なお、当時加盟館の山形大学に関しては、昭和57年度現在非加盟館であったため、分析対象から除外した(山形大学に深謝する)。分析対象86館の内訳は、医学系71館、歯学系15館となっていた。

調査質問票は、下記の5項目を明らかにすることを意図して作成した。

1. テレックス、ファクシミリの導入(予定)の現状
2. 相互貸借業務の役割分担
3. 会計業務と使用帳票
4. 相互貸借業務量
5. 相互貸借業務に関する現在の問題点

また、今回の調査を行うにあたり、相互貸借の文

流通量の定義を、郵便やテレックスによるサービス件数とし、直接来館した外部利用者(プロパー等)への件数および閲覧・照会などの件数を除外した。いわゆる「郵便相貸」によるサービス件数を、文献流通量と定義したので、JMLA加盟館統計とは異なっていることをお断りしておく。

III. 結果と考察

1. JMLA ネットワークの概要

JMLA ネットワークにおける昭和57年度年間処理件数は、貸(他館からの申込み)が274,578件、借(他館への申込み)が158,194件であった。約11万7千件の差は、JMLA加盟館外(JMLA準会員も含む)の大学、研究機関、病院図書室などからの申込みが多いからである。つまり、JMLAネットワークで処理される総貸件数の42%にあたる文献が、JMLA以外のネットワークへ流れていることを示唆している。

1983年の図書館年鑑³⁾によれば、昭和56年度の大学図書館(短大・高専含む)の貸件数は、556,121件であった。今回の調査データと1年間の違いがあるが、JMLAネットワークの貸件数は、大学図書館ネットワーク総処理件数の約50%を占めることになる。つまり、わずか86館のネットワークが、日本の大学図書館全体で提供している相互貸借サービス量の50%を供給していることを意味している。

なお、JMLAネットワークの貸・借件数を、医学系と歯学系の2つのサブ・ネットワークに分けると、貸・借ともに約90%が医学系において処理されていた。

2. 貸・借処理件数からみたJMLAネットワークの現状

貸件数と借件数の多い順にランクづけたものが表1・2である。貸ランクをみると、外国雑誌センター館と、関東地区の伝統館(歴史が古い大学の図書館)が上位を占めている。借ランクでは、新設医科大学・医学部が多く見られ、まだ所蔵資料の充実途上にあることを示している。

つぎに、貸件数と借件数の2つの要素により相関図を作成した(図1)。縦軸に借件数、横軸に貸件数をと

表 1. 貸件数ランク (昭和 57 年度)

1. 阪大	17,064
2. 九大	16,933
3. 慶応	9,864
4. 慈恵	9,032
5. 昭和	8,826
6. 東北	8,245
7. 独協	8,052
8. 聖マ	7,793
9. 東邦	6,940
10. 東大	6,824

表 2. 借件数ランク (昭和 57 年度)

1. 和歌	5,367
2. 愛媛	4,498
3. 自治	4,419
4. 川崎	4,017
5. 久留	3,985
6. 東邦	3,684
7. 長崎	3,576
8. 旭川	3,506
9. 東女	3,150
10. 筑波	3,025

図 1. 貸件数と借件数からみた JMLA ネットワークの現状

り、縦軸は 500 件ずつ、横軸は 1,000 件ずつ区切った網目に分割し、各館を位置づけた。この図から、特色のあるグループをとりあげ考察する。

第 1 のグループは、生物医学系外国雑誌センター館の 2 館(OD；阪大, KD；九大)である。貸件数では 3 位以下を 6,000 件以上離し、相関図の右端に位置している。両館とも借件数は 1,500 件以下であり、センター館としての資料の充実さを反映している。第 2 のグ

ループは、旧帝大の 3 館(TH；東北, TM；東大, KZ；金沢)である(東北は外国雑誌センター館であるが、本区分においてここは位置づけた)。第 1 グループと同様に借件数は 1,000 件以下と少ないが、貸件数においてはいずれも 5,000 件以上をサービスしており、国公立系の 3－5 位となっている。第 3 のグループは関東地区の伝統校 3 館(KO；慶応, SW；昭和, JK；慈恵)である。このうち 2 館はテレックス設置館であり 1 館は

テレックス未設置館であるが、資料の充実とともに、申込時および送金時の国立大の繁雑さに対する私立大の簡略さが、この数字を生んでいるといえよう。第4のグループとしては、関東地区の伝統館ではあるが、借件数が多い2館(TI；東邦, TJ；東女)である。第5のグループは、関東地区の私立校グループであり、新設校ながら貸件数の多い3館(DK；独協, SM；聖マ, KY；杏林)と、新刊雑誌や基礎医学雑誌をよく収集している4館(KU；北里, KI；北医, NM；日大, TO；東医)から形成されている。

関東図の左上のグループは、他館への申込み件数が多く、貸件数が少ない特徴をもっている。左下のグループは、歯学系の図書館が集中しており、貸借件数が小規模なグループである。なお、86館中で最も平均的な位置にあるのは、鳥取(TT)である。また国公立系と私立系とにわけると、国公立グループは、外国雑誌センター館(3館)と旧帝大(2館)からなる上位グループと、他国公立グループとの格差が大きいことがわかる。なお、私立系においては、このような大きな格差はみられない。

3. 文献提供指数からみた相互貸借活動の評価

相互貸借活動の評価を行うための指標として、各館の文献提供指数を算出した(付表1)。これは、貸件数を借件数で除算したもの(貸/借)であり、指数が高いほ

ど自館の借件数に比較して他館への貸件数が多く、ネットワークへの文献提供度が高いことを意味している。逆に、指数が低い館は、他館に依存する比率が高いことを示している。予算やサービス人員の制約を受けており、止むを得ない館もあろうが、指数の低い館は、「自館のコレクションが利用者要求と適合しているかどうか?」、「サービス体制に問題はないか?」といった視点から検討していく必要がある。さらに、JMLAネットワークの一員としての意識をもったコレクションの構築も望まれよう。

結果を指数が高い順からみると、外国雑誌センター館が上位1, 2, 3位を占めており、相互貸借業務量からもセンター館の形成が確立されていることを明示している。また、全国を8地区にわけて、地区単位の文献提供指数と、指数が3.0以上の館をあげたのが表3である。各地域単位の活動の状況と、相互貸借サービスにおいて中心的活動を行なっている図書館の識別ができるはずである。

4. テレックスとファクシミリからみた相互貸借活動

テレックスを導入している館は、昭和59年1月末現在で28館あり、分析対象86館の33%に相当した。導入を予定している館は3館だけであった。ファクシミリ導入館は5館であり、同一大学キャンパス間相互の使用であり、現在は学内利用の域をこえていない。導

表3. 地区別にみた処理量と中心館

	他館よりの 申込件数(IN)	自館よりの 申込件数(OUT)	文献提供指数 (IN/OUT)	指数3.0以上の館
A. 北海道地区	8,479	8,482	1.00	—
B. 東北地区	16,522	9,295	1.78	東北
C. 関東地区	130,038	56,595	2.30	慶応・慈恵・昭和・独協・聖マ・東大 北里・杏林・日大・東医・鶴崗
D. 北陸・上信越地区	10,376	7,816	1.33	金沢
E. 東海地区	12,675	13,607	0.93	—
F. 近畿地区	49,691	29,604	1.68	阪大
G. 中国・四国地区	19,497	18,302	1.07	山口
H. 九州地区	27,025	13,827	1.95	九大
全 国	274,303	157,528	1.74	

入予定館は7館あるが、導入に関して全体的に低調である。

表4は、貸件数の規模をもとに、テレックスとファクシミリに分け、分析対象館を国公立グループと私立グループから、導入状況をまとめたものである。これによると、テレックスの導入率は、国公立と私立で各々33%と同率であった。ただし、貸件数規模からみると、両グループに違いがある。私立グループは、規模の大きさと導入率が対応しているが、国公立グループは中規模館の導入率が高くなっていた。なお、ファクシミ

リは、導入している5館のうち4館が、私立の大規模貸件数館に集中していた。

5. 相互貸借業務の分担

JMLA加盟館会員名簿昭和57年版によれば、相互貸借専任は1～3名となっているが、実際には処理件数が多くなればなるほど、専任担当者以外の援助がなされている。そこで、複写・本出し・返本・書誌事項確認といった業務内容が、貸件数規模によって、どの

表4. 貸件数規模からみたテレックスとファクシミリの設置状況

貸件数	テレックス		ファクシミリ	
	国公立	私立	国公立	私立
4,000 以上	3 / 7 (43%)	10/14(71%)	0 / 7 (－)	4 / 14(29%)
2,000 以上	7 / 15(47%)	4 / 9 (44%)	0 / 15(－)	0 / 9 (－)
2,000 未満	4 / 21(19%)	0 / 20(－)	1 / 21(5%)	0 / 20(－)
Total :	14/43(33%)	14/43(33%)	1 / 43(2%)	4 / 43(9%)

図2. 貸件数規模からみた相互貸借業務の分担状況

表 5. 相互貸借担当者以外が行う業務内容の比率

受付件数	複 国公立	写 私立	本 国公立	出 し 私立	返 国公立	本 私立	書誌事項確認 国公立	私立
4,000 以上	6 / 7 (86%)	8 / 14 (57%)	2 / 7 (29%)	2 / 14 (14%)	6 / 7 (86%)	11 / 14 (79%)	1 / 7 (14%)	2 / 14 (14%)
2,000 以上	6 / 15 (40%)	0 / 9 (0%)	6 / 15 (40%)	0 / 9 (0%)	8 / 15 (53%)	5 / 9 (56%)	3 / 15 (20%)	0 / 9 (0%)
2,000 未満	7 / 21 (33%)	4 / 20 (20%)	5 / 21 (24%)	1 / 20 (5%)	12 / 21 (57%)	5 / 20 (25%)	1 / 21 (5%)	4 / 20 (20%)
	19 / 43 (44%)	12 / 43 (28%)	13 / 43 (30%)	3 / 43 (7%)	26 / 43 (60%)	21 / 43 (49%)	5 / 43 (12%)	6 / 43 (14%)

ように変化しているかを見るために、図 2 を作成した。これによると、複写と返本は、貸件数が多くなるほど相互貸借専任者以外によって処理されている。しかし、本出しと書誌事項確認は、規模に係りなく専任担当者の業務として位置づけられている。

つぎに、この結果を国公立グループと私立グループからみた分析を行うため、表 5 を作成した。国公立と私立という設立母体の違いからみると、複写・本出し・返本の各業務とも、相互貸借担当者以外の人々の援助する比率が高くなっていった。なお、会計業務も含め、相互貸借業務のすべてを 1 人の専任で行っている館は 7 館だけであり、貸件数からみると 1,300 台に 1 館あるだけで、他 6 館はいずれも 800 件以下という規模であった。

IV. 問題点

現在各館において相互貸借の業務上問題とされているのは次の 6 点である。

第 1 に、設置形態の異なる図書館間の送金・決済方法であり、特に国立大学の前納制及び送金方法について問題とされた。現在公私立大学では簡便な郵便振込による送金方法が定着しているのに対し、国立大学では国の会計法に基づいた国立大学間独自の会計システムを持ち決済を行っている。そのため公私立大学より国立大学へ申込をした際には、前納制という手段をふまなければ文献の入手は不可能である。前納制とは、文献発送以前に請求料金を送金し、領収された時点ではじめて文献が発送されるシステムである。また、その送金方法は国庫金のため現金書留・銀行振込・納入告知書による。これに関して、文献入手までの時間的

問題および経費の問題があげられていた。また前者の解決のために前納制を後納制に、後者の解決のために現金書留・銀行振込を郵便振込・納入告知書による送金方法の改善及び、送金方法の全国統一の意見があげられていた。なお、国立大学側からは料金前納制のため申込館の文献入手日数の点について希望になかなかそえないとの意見が出されていた。

第 2 に、国立大学における教室所在資料に関する問題である。国立大学では伝統的に図書館で受入れた図書を教室(講座)と図書館とで分散所蔵している場合が多い。これに関して申込みを受けた際の時間的・労力的問題及び教室における資料の管理不備の問題があげられていた。なお、蔵書の完全集中管理については国立大学の歴史的背景より困難としていた。

第 3 に、申込時の書誌事項確認に関する問題である。これは大きく①学内利用者の申込時の書誌事項の不備②業務担当者の他館への申込時の書誌事項の不備の 2 つに分けられる。特に後者に関して、JMLA の相互貸借マニュアルが守られていないため再調査に時間を要し通常の業務に影響が出ている点、また、特に非加盟館よりの申込みについてその傾向が大であるとされていた。

第 4 に、マイクロ所蔵資料に関する問題である。いくつかの新設医大では主要雑誌の古い巻をオリジナルではなくマイクロ化されたもので所蔵している。ところが、マイクロのコピーが非常に不鮮明であること、また、そのため所蔵があるのにもかかわらず利用者からオリジナルコピーを要求される矛盾についてあげられていた。

第 5 に、営利企業に対するサービスに関する問題である。これに関して著作権法に該当しないと判断して

いる館もあったが、営利企業よりの申込増加傾向及びこれに伴う業務量の増加に対する対応について危惧をいだいているとしていた。また逆に企業からの申込み受付を行っていないためクレームがよせられているとしていた館もあった。

第6に、相互貸借業務担当者の会計業務に関する問題である。これは担当者が本来の業務に加えこれに伴う会計処理業務を兼任しているため生じる問題であるが、会計業務の複雑さによる日常業務への負担が大きく、本来の業務へ影響をおよぼしているとされていた。また、各々の業務分担、会計業務の簡略化について検討しているという館もあった。

V. お わ り に

JMLAにおける文献流通ネットワークは文献要求のニーズの拡大により本来の Give and Take の精神にますます偏りの割合が増しているのが現状である。Give and Take の精神は、既に文献流通ネットワークを運用するに介在すべきものではなくなっているかもしれない。

いずれにせよ、現実問題を徐々に解決することは重

要であり、特に大きな事実、大学の国公立私立各々の設置形態により相互に解決すべき問題が存在することである。今後、相互貸借サービスの向上を図っていく上において、各館より出されていた問題点が共通していたことから、まず設置形態による溝をうめることが必要である。そのためにはお互いが一連の相互貸借業務の流れ(会計システムを含む)を全国的に統一し、文献流通を効率よく行える方向への検討を望みたい。なお、本調査が各館の相互貸借業務を再検討するうえでの検討材料となれば幸いである。

本稿を終えるにあたり、今回の調査にお忙しい中ご協力いただいた加盟館に謝意を表する。

参 考 文 献

- 1) 角田昭夫：日本医学図書館協会相互貸借業務の現状と課題；相互貸借業務実態調査報告の概要。医学図書環，28(2)：132-142，1981。
- 2) 奈良岡功他：ネットワーク(相互貸借の現状と将来)；第6回生物医学図書館員研究会報告。医学図書館，31(3)：273-288，1984。
- 3) 図書館年鑑1983，東京，日本図書館協会，p.389。

付表. ** 1982 年相互貸借基礎データ **

カンメイ カンシュ ¹⁾			R ²⁾	M : D	IN	IR ³⁾	OUT	OR ⁴⁾	ケイスウ ⁵⁾	KR ⁶⁾
阪大	OD	1	F	M	17064	1	1343	55	12.71	1
九大	KD	1	H	M	16933	2	1499	50	11.3	2
東大	TH	1	B	M	8245	6	969	74	8.51	3
東大	TM	1	C	M	6824	10	992	73	6.88	4
日大	NM	3	C	M	6511	13	1000	71	6.51	5
金沢	KZ	1	D	M	5227	16	917	76	5.7	6
杏林	KY	3	C	M	6614	12	1256	59	5.27	7
慈恵	JK	3	C	M	9032	4	1773	36	5.09	8
聖マ	SM	3	C	M	7793	8	1552	43	5.02	9
独協	DK	3	C	M	8052	7	1734	38	4.64	10
鶴歯	TU	3	C	D	3039	31	696	83	4.37	11
東医	TO	3	C	M	5959	14	1492	51	3.99	12
昭和	SW	3	C	M	8826	5	2515	19	3.51	13
慶応	KO	3	C	M	9864	3	2932	12	3.36	14
北里	KU	3	C	M	6750	11	2053	26	3.29	15
山口	YG	1	G	M	3205	27	1007	70	3.18	16
北医	KI	3	C	M	5625	15	1969	28	2.86	17
順天	JT	3	C	M	4042	21	1543	44	2.62	18
弘前	HR	1	B	M	2709	38	1062	68	2.55	19
熊本	KM	1	H	M	2722	37	1084	65	2.51	20
日大歯	NN	3	C	D	1771	50	716	82	2.47	21
帝京	TK	3	C	M	4245	19	1808	35	2.35	22
鳥取	TT	1	G	M	3042	30	1527	46	1.99	23
埼玉	ST	3	C	M	1715	54	875	78	1.96	24
東邦	TI	3	C	M	6940	9	3684	6	1.88	25
神戸	KB	1	F	M	2404	44	1286	57	1.87	26
奈良	NR	2	F	M	4493	18	2597	18	1.73	27
福岡	FO	3	H	M	1566	57	917	77	1.71	28
東海	TD	3	C	M	2824	33	1661	40	1.7	29
日松歯	MS	3	C	D	2539	43	1519	47	1.67	30
国がん	GC	1	C	M	991	72	597	85	1.66	31
東女	TJ	3	C	M	5007	17	3150	9	1.59	32
名大	ND	1	E	M	3420	23	2157	23	1.59	33
札幌	SP	2	A	M	4163	20	2633	17	1.58	34
徳島	TS	1	G	M	2771	35	1846	31	1.5	35
岡山	OY	1	G	M	3103	29	2095	25	1.48	36
広島	HS	1	G	M	2588	41	1744	37	1.48	37
阪歯	HP	3	F	D	1838	47	1250	60	1.47	38
阪医	OS	3	F	M	2688	39	1844	32	1.46	39
新潟	NG	1	D	M	1762	51	1222	61	1.44	40
阪市	OC	2	F	M	3675	22	2649	16	1.39	41
岩手	IW	3	B	M	2870	32	2150	24	1.33	42
三重	ME	1	E	M	2006	45	1517	48	1.32	43
京大	KT	1	F	M	3355	24	2655	15	1.26	44

馬	GM	1	C	M	1364	63	1081	66	1.26	45
近畿	KK	3	F	M	1574	56	1278	58	1.23	46
関西	KS	3	F	M	2686	40	2193	22	1.22	47
医歯	IS	1	C	M	1045	71	872	79	1.2	48
日医	NI	3	C	M	1552	58	1306	56	1.19	49
北大	HM	1	A	M	2771	34	2343	21	1.18	50
兵庫	HG	3	F	M	3307	25	2821	13	1.17	51
信州	SS	1	D	M	1410	62	1210	62	1.17	52
滋賀	SG	1	F	M	1607	55	1507	49	1.07	53
横浜	YH	2	C	M	1355	64	1432	53	0.95	54
千葉	CB	1	C	M	2766	36	2951	11	0.94	55
鹿兒	KG	1	H	M	1734	53	1897	29	0.91	56
城歯	JS	3	C	D	1352	65	1540	45	0.88	57
福島	FS	2	B	M	1481	61	1717	39	0.86	58
名保	NE	3	E	M	1130	67	1353	54	0.84	59
愛歯	AD	3	E	D	985	73	1176	63	0.84	60
名古屋市	NC	2	E	M	1880	46	2384	20	0.79	61
川崎	KW	3	G	M	3106	28	4017	4	0.77	62
岐阜	GF	1	E	M	1532	60	1986	27	0.77	63
東歯	TG	3	C	D	1125	68	1490	52	0.76	64
日歯	NH	3	C	D	736	75	1030	69	0.71	65
愛医	AI	3	E	M	1332	66	1895	30	0.7	66
金医	KA	3	D	M	704	76	1074	67	0.66	67
福歯	FD	3	H	D	390	80	599	84	0.65	68
京府	KF	2	F	M	1785	48	2814	14	0.63	69
和歌	WK	2	F	M	3215	26	5367	1	0.6	70
自治	JC	3	C	M	2571	42	4419	3	0.58	71
富山	TY	1	D	M	1076	70	1844	33	0.58	72
秋田	AK	1	B	M	959	74	1819	34	0.53	73
九歯	KH	2	H	D	140	85	270	86	0.52	74
長崎	NS	1	H	M	1779	49	3576	7	0.5	75
久留	KR	3	H	M	1761	52	3985	5	0.44	76
旭川	AS	1	A	M	1545	59	3506	8	0.44	77
島根	SH	1	G	M	581	78	1568	42	0.37	78
岐歯	GS	3	E	D	390	79	1139	64	0.34	79
神歯	KN	3	C	D	301	81	934	75	0.32	80
防医	BI	1	C	M	264	82	998	72	0.26	81
愛媛	EH	1	G	M	1101	69	4498	2	0.24	82
筑波	TB	1	C	M	644	77	3025	10	0.21	83
松歯	MD	3	D	D	141	84	770	81	0.81	84
北歯	HD	3	B	D	258	83	1578	41	0.16	85
日歯潟	GD	3	D	D	56	86	779	80	0.07	86
山形	YA	1	B	M	275		674		0.41	
					274303		157528		173.4	
					3189.57		1831.72		2.02	
									1.741	

*注1) カンシュ 1: 国立 2: 公立 3: 私立 2) R=地区別 表3に準ずる 3) IR=貸件数のランク 4) OR=借件数のランク 5) ケイスウ=文献提供指数(貸件数/借件数) 6) KR=文献提供指数のランク